

BSL4 実験室内で実施される業務内容について

高度封じ込め施設長 西條 政幸

先日、高度封じ込め施設運営委員会（濱口委員長）において下記の業務を実施することの承認が得られましたので報告します。

1. 業務課題名

サルを用いた重症熱性血小板減少症候群ウイルス遺伝子発現組換えワクシニアウイルスのワクチン効果の検討

2. 業務実施責任者

ウイルス第一部長 西條 政幸

3. 業務実施背景

日本、韓国、中国で流行している重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の致命率は10%~30%と高く、現在有効なワクチンによる予防法は存在しません。これまでの業務で、小動物で予防効果を示すワクチン候補が得られています。

4. 業務実施目的

SFTS の霊長類モデルを用いて得られているワクチン候補の効果を検討します。

5. 高度封じ込め施設において当該業務を行うことの必要性

国立感染症研究所（感染研）病原体等安全管理規程では SFTS ウイルスの取り扱いは BSL3 で行うとされていますが、感染研村山庁舎内で霊長類（サル）を用いた業務を実施できる BSL3 施設はありません。そのため、高度封じ込め施設で当該業務を実施したいと考えています。

6. 実施期間

平成 31 年 3 月下旬から平成 32 年 3 月末を予定しています。

7. その他

本業務においては、霊長類が使用される予定です。また、本業務は BSL4 実験室安全操作指針に従い、安全性に配慮して実施されます。